

# 「名門復活へ」強い味方

## クロスカントリーコース新設

中央大学陸上競技場(多摩キャンパス)に箱根駅伝優勝への強化策として、クロスカントリーコースが新設され、10月25日、完成披露式が行われた。

栄光の6連覇を達成した中大駅伝チームの覇権奪還を目指し、支援団体の「中央大学箱根駅伝を強くする会」が母体となって約3000万円の募金を集め、完成を急いでいた。



新設コースを笑顔で走る駅伝チーム

起伏の多いコースは2015年大会の箱根駅伝で初優勝した青山学院大の「強さの秘密」として大きな話題となっている。

新コースは競技場の外周路沿いに3カ所設置され、斜度と距離はそれぞれ5%・全長74.4㍎、6%・同46㍎、7%・同52㍎と違いを付けた。走路幅はいずれも1.8㍎。

選手は、照明設備のある競技場で夜間も練習ができる。既存外周路との組み合わせによりバリエーション豊かな練習が可能となるなど、日々の練習は質、量ともに充実度が増すとみられている。

浦田春生監督は、関係者に感謝の



祝辞を述べる鈴木会長

言葉を何度も述べた後、「箱根駅伝はどの区間も平坦ではありません。クロスカントリーコースでの練習は実戦的で、心肺機能を高め、良いフォームを習得するなど万能トレーニングの一つです。有効利用して強化を目指します」と決意表明した。

「駅伝を強くする会」の会長で、自動車のスズキ・鈴木修会長は祝辞でこう話した。

「箱根の山を上るのにフラットなところを走っているのは練習にならない。約3000万円の工費は全国のOBや支援者に寄付をしていただいた。コースの完成で箱根の本大会では1、2位争いに加わることを期待しています。厳しい言葉は母校愛の裏返しです」

選手は既に9月17日から練習を始め、この日はデモンストレーションとして勇姿を見せた。



テープカットする(左から)酒井総長・学長、鈴木会長、深澤理事長、遠藤五輪相、藤井主将